

10. 川崎市における糖尿病市民講座の変遷と参加者アンケート調査から見た市民の意識

川崎糖尿病懇話会

津村 和大	伊東 克彦	植木 彬夫
大島 康男	太田 明雄	大野 敦
小花 光夫	菊池 泰介	久保田 章
栗田 正	沢 丞	調 進一郎
鈴木 竜司	高橋 裕昭	詫摩 哲郎
田中 洋一	原 真純	半田みち子
松葉 育郎	南 史朗	杵保 敦子
田中 逸	三川 武彦	

【背景と目的】近年、糖尿病予防やメタボリックシンドローム対策が注目される中、効果的な市民教育の重要性が広く認識されているが、市民がどのように医療情報を集め、どのようなニーズを有しているかに関するデータは乏しい。川崎市内の糖尿病専門医有志により構成される川崎糖尿病懇話会が11年に亘り主催してきた「川崎糖尿病市民講座」の変遷を紹介し、市民講座参加者の意識を検証することは、今後の市民啓発活動在り方を考える上で意義深いと考えられる。

【市民講座の概要】平成10年から毎年春に本懇話会主催、川崎市医師会・川崎市内科医会・神奈川県糖尿病協会後援の下、「川崎糖尿病市民講座」と題する市民啓発活動を行っている。糖尿病専門医・日本糖尿病療養指導士を中心とする糖尿病診療と療養指導に携わる医療スタッフが、講演・パネルディスカッション・相談コーナー・展示コーナー等を通じた情報提供と啓発活動を行うものである。

【参加者の概要】開催初期の第1～3回は150名程度の参加者であったが、第8～11回は300～400名の市民が参加している。最近の参加者年齢分布は65歳にピークを認め、男女比は1:2で女性が多い。約半数が糖尿病患者であり、患者家族を含めると参加者総数の2/3を占める。また、2/3以上の参加者が何らかの疾患で医療機関に通院中である。糖尿病患者の自己申告によるHbA1c値は、7%前後を中心に幅広く分布する。尚、毎回約8割が初めての市民講座参加となっている。

【参加者の医療情報に関する意識とニーズ】医療機関から得られた情報を最も信頼していたが、これはメディアによる一般市民を対象とした先行調査と異なる結果である。調査客体の相違に起因すると考えられるが、市民に対する情報提供の在り方を検討する上で示唆に富むデータが得られた。今後の企画としては、「教育講演」、「相談会」、「体験学習」、「展示」の順に高い要望が見られた。

【総括】川崎市における糖尿病市民講座の実績と参加者アンケート調査から浮き彫りにされた課題を併せて、分

かりやすく提示したい。また、今後の糖尿病市民教育の質の向上に寄与する工夫についても議論したい。

11. 川崎市中原地区における糖尿病病診連携について

川崎市中原区糖尿病病診連携の会

小花 光夫	三川 武彦	田中 洋一
中島 一巳	島 利夫	秋丸 大理
大迫 宏次	宇藤 浩	菊岡 正和
前田 貞亮	布施 純郎	堺 浩之
澤口健太郎	廣澤 恵子	杵保 敦子
半田みち子	南 史朗	

近年における糖尿病患者の飛躍的な増加をふまえて、平成18年春に中原区医師会長から川崎市中原地区における糖尿病病診連携の会を設立することが発案された。世話人にはクリニック代表として糖尿病専門医、眼科医を含む14名が選任され、区内の3つの基幹病院（日本医科大学武蔵小杉病院、関東労災病院、川崎市立井田病院）の糖尿病専門医とともに招集された。第1回世話人会での討議により3大目標として、①病診連携マニュアルの作成、②糖尿病勉強会の開催、③当会ホームページの立ち上げ、が提案された。その後、数回の世話人会を経て平成18年9月に「川崎市中原区糖尿病病診連携の会」が設立された。

これまでの当会の実績は以下のとおりである。

①糖尿病病診連携マニュアルが平成19年7月に刊行・配布された。マニュアルにおける病院サイドとクリニックサイドの記入用紙は当日供覧する。これをみてクリニックは患者をどこの病院に紹介するかを決定して、他方、病院は病状の安定した患者を居住地近隣のクリニックへと逆紹介することが可能となった。本マニュアルは一般人には配布しないので医療機関でのメールアドレスのみならず個人のメールアドレスも記載している。なお、マニュアルの実効を上げるために病院については中原区以外であっても主要な市立病院、大学病院は掲載した。

②平成19年3月から現在までに5回にわたって勉強会が開催された。その内容は糖尿病の非専門内科医のみならず、内科以外の他科の医師にとっても興味のあるものとした。講演だけではなく一部は実技（頸動脈エコーによるIMT測定）も取り入れて、中原区内全体の糖尿病関連診療のレベルアップを目指している。

③インターネット上に当会のホームページを立ち上げた。非公開とする個人情報のページにはパスワードを設定した。ただし、連携マニュアルについては個人メールアドレス以外は全て一般人にも閲覧可能とした。

今後、マニュアル改訂や勉強会の開催のみならず、診